

テーマ——腫瘍内科 平成26年度漢方医学講座・臨床講座

今日の癌薬物療法

昭和大学医学部内科学講座・
腫瘍内科学部門昭和大学腫瘍分子生物学研究所
佐々木 康綱

(平成26年11月16日収録)

今日は、多少なりとも漢方に接点のある話題も混ぜながら、今日の癌の薬物療法について解説をさせていただきます。

I. 癌とは

これは乳癌の患者さんです(図1・カラー126頁)。乳癌の患者さんでは、癌ということが分かっているにもかかわらず、病院に来られない方が、年に何人かいらっしやいます。骨などに転移をして痛くてしょうがなくなると、真夜中に救急外来に来るというパターンが多いです。最近、診た患者さんは、もう自分が乳癌ということはわかって、呼吸も苦しくなった。どこかの海岸に行って自殺しようと思っておりましたが、担ぎ込まれて昭和大学病院に来たということでした。その患者さんは、先週ニコニコして退院されております。それだけ乳癌は治療のし甲斐があるし、抗癌剤が効きやすい癌といってもよろしいと思います。

■癌という字

「癌」という字は、普通は漢字で、こういう字を書いますが、例えば「国立がんセンター」では平仮名、「新潟県立ガンセンター」では当初カタカナで書いています。今、厚生労働省等が使う場合は、通常は平仮名を使います。それには色々な理由があつて、「癌」という漢字が読みづらいし、見た目の印

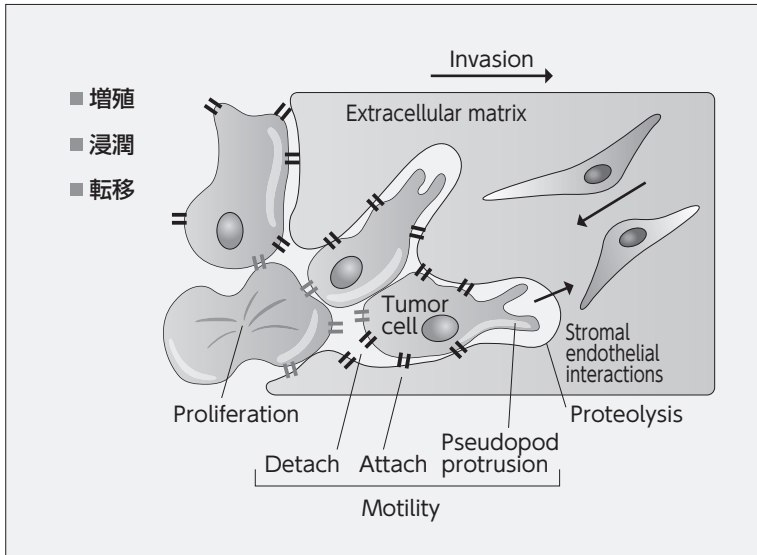


図2 癌と悪性度

象が良くないために、平仮名表記にしてあるということです。厳密に言うと、上皮性のもは此の漢字を書いて、悪性腫瘍全体を指す場合は平仮名で書くということになっています。しかし、その区別は、それほど厳密なものではありません。

■癌と悪性度(図2)

癌が悪性である理由は3つの性質を持っているからです。まず、①増殖する。②浸潤する。例えば肺癌は縦隔のリンパ節から、近くの心臓に入り込んで、大血管に入るような性格を持っているわけです。そういう場合には、局所にとどまっても手術の適応はなくなってくるわけです。さらに、一番の問題は③転移、特に遠隔転移です。

〈癌の転移(図3)〉

癌はどこに転移しやすいかというと、脳と肺と肝臓、そして骨です。骨

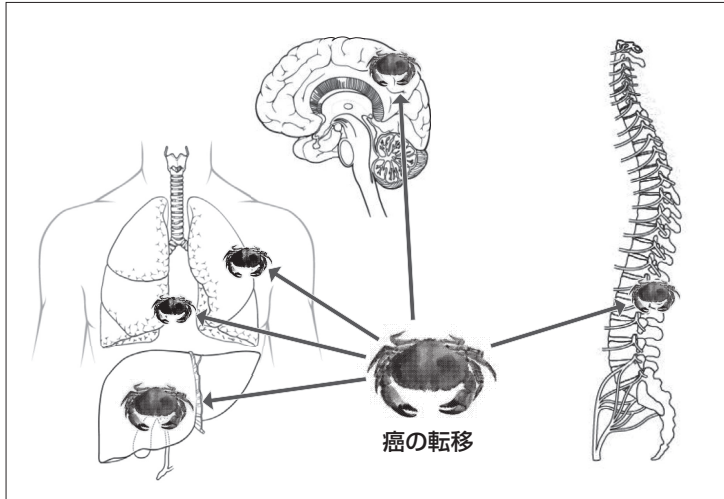


図3 癌の転移

の転移は生命予後に直接的に影響する転移ではないのですが、例えば脊椎がつぶれてしまった場合に、横断麻痺になって、患者さんはずっと車椅子の生活で残された寿命を全うしなければならないわけです。一方、脳と肺と肝臓というのは、まさに命に関わる転移の仕方です。こういう病態に対して積極的に抗癌剤を使います。

II. 我が国における癌の現況

■疾患別死亡率における癌

現在の我が国における疾患別死亡率の推移を示したものです(図4・カラー126頁)。三大成人病、癌、心筋梗塞、脳卒中をみた場合、残念ながら癌の死亡率だけが上昇しています。現在、日本人にとって癌が最も重要な疾患といっても過言ではないのです。

米国にも同じように、団塊の世代、ベビーブーマーの時代があって、その人達は50、60、70になると急激に癌に罹患しやすくなっていくという